

講義名	対2)19-社会経済分析/15-都市情報解析			授業形態	
担当教員	岸野 啓一 / 西井 和夫		開講期・曜日・時限	前期 木曜日 4時限	
	単位数	2	履修開始年次	3年生	ナンバリング

主題と概要

テーマ：都市空間における各種の経済・人口動態・交通・生活行動・観光統計データを用いた解析手法の理解とその適用
 都市空間およびその中で営まれている様々な社会、経済活動を把握することは、都市を知り、それを踏まえた適切な政策を策定・提案するための第一歩として必要不可欠なことである。このとき、こうした都市的活動に関わる様々な「情報」は、経済学的視点、都市社会学的視点、時間地理学的視点で捉えることができる。本科目では、このうち幾つかの時空間的視点に着目し、「都市情報」の中でも特に人口・統計・地理データ・都市経済データとしてミクロな交通（行動）に関する時空間データに基づき「都市の様相を知る・診断する」ための手法や考え方、理論などについて、具体的な都市情報解析演習を交えて学習することを目的とする。
 我々の日常生活や経済活動において、人・金・物・情報といったあらゆるデータに基づく適切な意思決定が必要であることは自明である。そのためには、これらの多種多様で膨大なデータ（ビッグデータ）から、データを集計・統計処理・解析することを通じて、的確な情報量の縮約、有意な統計量の推定・検定、データ間の統計的な因果関係などを導くことが求められる。
 本授業では、都市空間内の流動データ等、各種の経済統計データの処理及び解析に必要な基礎理論及び統計解析手法の基礎的内容の理解とともに、この考え方に基づく都市空間特性の解析手法に関する演習を通じて、それらの理解を深めることとする。

到達目標

本科目で紹介された「都市の様相を知る・診断する」ための手法や考え方、理論などについて基本的な理解を深めることができるようになる。
 前半部では、都市・地域の土地利用に関する都市空間データを用いて、「時空間アクセシビリティ指標」の考え方とその同定化に関する理解と適用について習得できるようにする。
 後半部では、都市交通データの中で代表的なパーソントリップデータを用いて、人の1日の空間移動データに関する、生成、発生、0交通量の分析・予測方法の理解と適用について習得できるようにする。

提出課題

ほぼ毎回の授業で、各自がそれぞれ講義内容の理解度の自己確認を行うための課題演習（レポート）を予定しているため、注意されたし。（レポートの作成を通じて講義内容の理解度向上が目的であるので、レポートのコピーは厳禁）

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

課題演習は、積み上げ型の授業を進めていくために、基本的に次週に採点結果を踏まえ、全体的な講評と個別のコメントを付す。

評価の基準

前半部・後半部のそれぞれで、下記の点数配分で評価する。
 【前半部】平常点45%（講義内での簡単な演習課題への取り組みの評点）、確認テスト（2回分）+レポートを含む）55%
 【後半部】平常点30%（講義内での簡単な演習課題への取り組みの評点）、確認テスト70%

履修にあたっての注意・助言他

参考テキストやプリントに促った連続的な積み上げ授業（演習形式）であるため、欠席は避けること。また、受講にあたり確率・統計に関する基礎科目の履修が望ましい。また、データ解析手法の適用の際にエクセル表活活用等がありパソコンの基本操作の習得が望まれる。
 定期試験期間の試験はないので注意！
 新型コロナウイルスの感染状況により、オンライン授業に移行する場合、次のように対応する。
 前半部：対面授業をいかに配信する。
 後半部：対面授業の録画ビデオをYouTubeにて配信する。

教科書

.使用しない。

参考図書

.なし。

その他

講義時に配布するプリント類

授業計画

- No.1-No.8 担当 西井
 01 都市の土地利用と交通の捉え方（都市交通需要分析における位置付け）
 02 土地利用-交通分析（1）：土地利用と交通との相互関係
 03 土地利用-交通分析（2）：アクセシビリティ分析
 04 土地利用-交通分析（3）：土地利用-交通モデル紹介
 05 時空間プリズムと時空間アクセシビリティ指標
 06 アクセシビリティの考え方を基にした都市解析モデル（1）
 07 アクセシビリティの考え方を基にした都市解析モデル（2）
 08 前半部（1-7）の確認とまとめ

- No.9-No.15 担当 岸野
 09 都市情報・社会経済情報の読み取り方・捉え方
 10 交通実態の把握（1）：交通実態調査
 11 交通実態の把握（2）：生成、発生、集中
 12 交通実態の把握（3）：OD分布、交通手段分担
 13 交通需要の予測（1）：将来人口の予測手法
 14 交通需要の予測（2）：生成量、発生集中度、分布交通量の予測
 15 後半部（9-14）の確認とまとめ

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

レポートの作成や講義内容の理解を深めるための予習・復習に毎週4時間程度の時間が必要である。
 当然のことながら、予習・復習のみならず、授業時間中によく話を聞き、内容を理解しておく必要があることは言うまでもない。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

この授業は、本学のディプロマ・ポリシーと次の点で関連する。
 「流通科学大学の学生が卒業時に到達して身につけておくべき資質・能力」のうち、知識を応用し転換することができる、論理的思考力を持った人材
 創造力、新しい視点と豊かな発想を持った人材
 「経済学部 経済学科の学生が卒業時に身につけておくべき資質・能力」のうち、世の中の動きを理解して、経済問題を中心に現代社会の諸問題に解決策を提案することができる。
 「経済学部 経済情報学科の学生が卒業時に身につけておくべき資質・能力」のうち、経済学および情報学を基礎とした経済情報分析力を活かして、経済社会のさまざまな問題に対して情報技術を用いた解決策を提案することができる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

基本的には、講義中の質疑応答等により対応している。ICTの活用については非該当のため利用の計画はない。

実務経験の有無及び活用

西井：実務経験なし
 岸野：実務経験あり（交通計画の実務における交通実態調査の実施、将来人口や交通量の予測など）

備考